

第5章 モデルプロジェクト

本戦略の施策を先行して具体化することにより、方策や成果を広く周知し、戦略全体の推進に役立てることを目的として、5つのモデルプロジェクトを設定します。

1. 「生物生息空間」の保全・再生・創出プロジェクト

施策「1-2-1. 公共公益施設における「生物生息空間」の保全・再生・創出」の具体化を通じて、エコロジカルネットワークの形成や啓発、市民の自然や生きものへの関心の向上などを図ります。

表 5-1 関係施策（◎：特に関係が強い施策）

目標1「生物生息空間」を守り、創り、つなぎ、エコロジカルネットワークをつくります	◎ 1-2-1. 公共公益施設における「生物生息空間」の保全・再生・創出
	1-3-1. エコロジカルネットワークの目標や構築方法の共有
	1-3-2. 生物多様性に配慮した管理の推進
目標2 身近な自然や生きものへの「親しみ」と「関心」を高めます	2-2-2. 自然や生きものを楽しむイベントの実施
目標3「生きもののにぎわい」を守るために行動する人や団体等を増やします	3-1-1. 市の事業への生物多様性の反映
	3-1-2. 団体等の活動への生物多様性の反映
目標4「自然の恵み」を所沢市の魅力アップにつなげます	4-3-2. 自然を感じるまちなみの保全と創出

事業候補地

① 市役所

多くの市民が利用する「市役所」で、生物生息空間の再生・創出を実施することにより、生物多様性や生きもの、自然への関心高め、多様な主体の取り組みを促します。

市役所（入口）



②（仮称）第2一般廃棄物最終処分場

新設する（仮称）第2一般廃棄物最終処分場*で、設計段階から、生物生息空間の保全・再生・創出方策を検討し、具体的な取り組みを行っていきます。

（仮称）第2一般廃棄物最終処分場パース案



③ 小手指ヶ原公園

計画検討、整備が予定されている「小手指ヶ原公園」において、「生物生息空間」の保全・再生・創出方策を検討・実施することにより、公園で生物多様性に関する取り組みを推進するモデルとします。

小手指ヶ原公園計画地の景観



2. 庭やベランダに生きものを呼ぼう！プロジェクト

市民にとって身近な場所である庭やベランダに、野鳥や昆虫などの生きものを呼ぶ取り組みを通じて、身近な生きものへの関心を高めるとともに、生物多様性やエコロジカルネットワークの形成について普及・啓発を進めます。

表 5-2 関係施策（◎：特に関係が強い施策）

目標1「生物生息空間」を守り、創り、つなぎ、エコロジカルネットワークをつくれます	◎ 1-2-2. 民有地における「生物生息空間」の保全・再生・創出
	1-3-1. エコロジカルネットワークの目標や構築方法の共有
	1-4-1. 野生生物の生息生育状況の把握
目標2 身近な自然や生きものへの「親しみ」と「関心」を高めます	2-2-1. 自然や生きものを学ぶ講座の開催
目標4「自然の恵み」を所沢市の魅力アップにつなげます	4-3-2. 自然を感じるまちなみの保全と創出

実施方法（例）

① パンフレットの作成・配布

庭やベランダに生きものを呼ぶための方法を示したパンフレットを作成・配布し、興味・関心を持ってもらうきっかけとします。

② 庭やベランダに生きものを呼ぶ講座の開催

庭やベランダに生きものを呼ぶための、具体的な方法について学ぶ講座を開催します。

③ やってきた生きものの共有

庭やベランダにやってきた生きものを記録、報告し、インターネットなどを通じて共有するなど、エコロジカルネットワークへの貢献について実感できるようなしくみを検討します。

④ 取り組みの普及・広報

庭やベランダに生きものを呼ぶ取り組みの見学会の開催や、広報紙や市ホームページ、SNS*等への掲載などにより、取り組みの輪を広げていきます。



庭につくった水辺で羽化したギンヤンマ



庭の小さな水辺にやってきたシジュウカラ

3. 武蔵野の生きものの復活プロジェクト

本市に見られる代表的な3つの環境タイプ（樹林／草地／水辺）と、本市が全国的にアピールできる地域イメージである“武蔵野”をあわせた、「武蔵野の生きものの復活プロジェクト」に取り組みます。

プロジェクトは、多くの人の興味を引く生きものや、絶滅の危機に瀕している生きものをシンボルとして進めます。

表 5-3 関係施策（◎：特に関係が強い施策）

目標1「生物生息空間」を守り、創り、つなぎ、エコロジカルネットワークをつくります	1-1-1. 「緑地保全制度」による保全指定の推進
	1-1-2. 生物生息空間の公有地化の推進
	1-1-3. 民間トラスト活動との連携の推進
	1-2-1. 公共公益施設における「生物生息空間」の保全・再生・創出
	1-3-1. エコロジカルネットワークの目標や構築方法の共有
	◎ 1-4-2. 絶滅の危機にある生きものの保護
目標2 身近な自然や生きものへの「親しみ」と「関心」を高めます	2-1-1. 学校での自然や生きものとのふれあいの充実
	2-1-3. 地域で子どもが自然や生きものにふれあう機会を増やす
	2-2-2. 自然や生きものを楽しむイベントの実施
	2-2-3. 自然や生きものについての情報発信

(1) 武蔵野の雑木林の生きものの復活プロジェクト

緑地保全制度*による保全指定や公有地化*により樹林を保全するとともに、生きものの生息・生育に配慮した樹林の管理や更新による環境整備を通じて、かつて、雑木林*で多く見られたカブトムシ、クワガタムシ、ヤマトタマムシなどのコウチュウ類や、オオムラサキ、ゴマダラチョウなどのチョウ類などが多く生息する雑木林の復活を図ります。

実施方法（例）

① カブトムシの生息環境づくり

カブトムシの幼虫の育つ場所として、雑木林の中にクヌギ・コナラ等の落ち葉を集めてたい堆肥にする「落ち葉のプール」をつくります。

② クワガタムシ・ヤマトタマムシの生息環境づくり

クワガタムシやヤマトタマムシの幼虫の育つ場所として、雑木林の中にクヌギ等の朽ち木を半分地中に埋めた場所や、枯れ木を積んで集めた「木積み」をつくります。

③ オオムラサキ・ゴマダラチョウの生息環境づくり

オオムラサキやゴマダラチョウが確認されている樹林から生息域を広げることを目指し、幼虫の食樹であるエノキを増やすために、実生のエノキを残した林縁部の除草や、地場産のエノキの苗木の植栽などを行います。

④ 雑木林の伐採と更新

若い林や明るい林を好む昆虫や野草等の生物生息環境を改善するために、雑木林の伐採・萌芽更新や、苗木の植栽等の管理活動を進めます。



雑木林の生きもの

(2) 武蔵野の草原の生きものの復活プロジェクト

武蔵野は、平安時代の和歌や江戸時代の屏風に草原として描かれており、新田開発が始まる江戸時代初期までは、秋の七草であるススキやナデシコ、キキョウ、オミナエシ、フジバカマ、ハギをはじめ、さまざまな野草が生育する草原が広がる場所でした。草地は、野草のほかにホンダカヤネズミやキュウシュウノウサギなどの哺乳類、ヒバリ、キジなどの鳥類、マツムシやクツワムシなどの鳴く虫などの生息場所として生物多様性において重要な環境ですが、現在では減少が進んでいます。そこで、かつての武蔵野をイメージさせる自然草地を保全、創出し、草地に生息する生きものの復活を図ります。

実施方法（例）

① 自然草地の維持管理による保全

今ある自然草地については、定期的な草刈りを行い、樹木の侵入や生育を抑えることで草地を維持します。また、草刈りの際に一部刈り残すなどの配慮によって、生きもののすみかや逃げ場を確保します。

② 自然草地の創出

公共公益施設*や集合住宅などにおいて、場所の広さを考慮しながら、自然草地の創出を検討します。また、芝生などの人工草地のうち人の利用が少ない場所などにおいて、管理頻度を下げることによって自然草地に転換することを検討します。



草地の生きもの

（３）武蔵野の清流とミヤコタナゴの野生復帰プロジェクト

国の天然記念物*である「ミヤコタナゴ」は、埼玉県内では野生絶滅し、現在、埋蔵文化財調査センターにおける人工増殖の努力によって個体数が維持されています。

本プロジェクトでは、人工増殖によって守られてきた、ミヤコタナゴを自然の中に戻す、野生復帰を目指して取り組みを進めます。



ミヤコタナゴ

実施方法（例）

① 推進体制

文化財保護委員の助言・指導のもと、市文化財保護課、上山口ミヤコタナゴ保存会が中心となり、埼玉県などと連携しながら進めるものとします。

② 推進方針

ミヤコタナゴの野生復帰には、産卵母体である二枚貝とその生息に必要な底層性の魚の育成環境が重要であることから、環境整備に重点をおき生育実験及び調査を進めるものとします。

③ 実施内容

A．増殖実験池での継続的な生育

上山口ミヤコタナゴ保存会との連携のもと、増殖実験池において、二枚貝類及び底層性の魚の育成環境のために必要とされる条件を探りながらミヤコタナゴの継続的な生育を目指した実験的な飼育と増殖を進めます。

B．柳瀬川上流域における二枚貝類及び底層性の魚の生息環境の整備

柳瀬川上流域において、埼玉県と連携しながら、二枚貝類及び底層性の魚の生息と繁殖の状況を調べながら、生育環境の整備に努めます。

生育環境整備の例としては、以下のような取り組みが想定されます。

- ・プランクトンを増やすための方策の実施
- ・固くなった川底の掘削や河床の掘り起こし
- ・水深が不足する水域や流れが速い場所への杭の設置
- ・護岸*を含めた流域の自然環境の再生

C．タナゴ類の調査

2019年度（令和元年度）に、柳瀬川上流において、ヤリタナゴの生息が確認されています。今後も、柳瀬川上流域を中心に、タナゴ類の生息調査に努めるものとします。

4. 所沢エコツアープロジェクト

自然や生きものを案内するエコツアー*は、市外からの来訪者に市の魅力をアピールするとともに、参加した市民が市の魅力を再発見し、誇りを育むことにもつながります。

市には、自然の保全や管理に取り組むさまざまな団体があることから、これらの団体の協力のもと、エコツアーの実施に取り組みます。

表 5-4 関係施策（◎：特に関係が強い施策）

目標2 身近な自然や生きものへの「親しみ」と「関心」を高めます	2-2-2. 自然や生きものを楽しむイベントの実施
目標4 「自然の恵み」を所沢市の魅力アップにつなげます	◎ 4-1-1. 自然を活かした地域振興

実施方法（例）

① 協力団体の募集

「（仮称）所沢エコネット交流会」等を通じて協力団体を募ります。

② エコツアーの実施に向けた支援

エコツアーを実施する際のルールやマナーなどの基本的な実施方針をガイドラインとして定めるとともに、団体がエコツアーを企画・実施する際のポイントや留意点をまとめた冊子の配布や、アドバイスなどの支援を行います。

③ エコツアーの広報

協力団体が計画・実施するエコツアーについて、広報紙や市ホームページ等で紹介します。また、市内のローカルメディアなどと協力団体をつなぎ、わかりやすい魅力の発信を行います。



動物や植物の面白い生態を案内するエコツアー
（イメージ）

5. 生きもの大好きプロジェクト

自然や生きものが好きな子どもを増やすために、子どもや親子が楽しく自然を学べるイベントを、さまざまな場所や方法で実施していきます。

表 5-5 関係施策（◎：特に関係が強い施策）

目標2 身近な自然や生きものへの「親しみ」と「関心」を高めます	2-1-1. 学校での自然や生きものとのふれあいの充実
	◎ 2-1-2. 身近な自然や生きものへの関心向上の支援
	◎ 2-1-3. 地域で子どもが自然や生きものにふれあう機会を増やす

実施方法（例）

①「所沢生きものワークブック」の作成と活用

質問に答えたり、作業をすることで、子どもたちが生物多様性や身近な自然、生きものを知り、興味を育むことができる「所沢生きものワークブック」を作成し、イベントなどで活用します。

②「生きものと子どもが集まる森づくり」の推進

緑地保全制度*による保全指定地や公有地*などでカブトムシやクワガタムシなどの繁殖を目指し「落ち葉プール」や「木積み」をつくる「生きものと子どもが集まる森づくり」をプロジェクトの中心に据えて、学校に近い場所への設置を考慮した取り組みを進めます。（3. 武蔵野の生きもの復活プロジェクトの（1）武蔵野の雑木林の生きもの復活プロジェクトと連動した取り組みとします。）

③ 子どもや親子を対象とした自然イベントの実施

子どもや親子を対象としたイベントを、団体等と協力しながら実施します。イベントはゲーム性を持ったものや作業を行うもの、地元の食を味わうものなど、さまざまな年代の人が楽しめるように工夫します。



自然の中の「色」を探す



身近な生きものの生態を学ぶ

自然イベント